

高品質で安心・安全な米づくりは、土づくりと健苗育成から！！

高品質で美味しいお米の生産は、田植前から始まっています。土づくりの継続と健苗育成により、今年の稲作に向けて好スタートを切りましょう。

ケイ酸質資材の施用 ～継続して施用しましょう～

- 昨年秋にケイ酸質資材を散布できなかったほ場では、必ず春に施用しましょう。
- ※ケイ酸には、割粃（カメムシ被害）や倒伏を軽減する効果があります。
- ごま葉枯病が見られた水田には、鉄を含む土づくり資材を散布しましょう。

ケイ酸質資材の施用量の目安

資材名	施用量(10a 当り)
① 有機加里入りシリカロマン2号	80 kg以上
② 鉄田満太郎	100 kg以上
③ シリカロマン	80 kg以上
④ 砂状ケイカル	200 kg



【ごま葉枯病】

③、④の資材はカリを含まないため6月中下旬に「エスアイ加里らくだ」または「エスアイ加里カリ投げくん」を施用しましょう。

有機物の施用 ～堆肥散布で地力を高めよう～

- 腐植含量が少なく地力の低いほ場は、堆肥を施用しましょう。
- 注）春に発酵鶏ふんを施用したほ場では基肥をチッソ成分で1～2kg/10a 減肥しましょう。

有機物の施用量の目安

堆肥の種類	施用量
発酵鶏ふん	75～100 kg/10a

深耕の実施 ～春は深耕して作土深の拡大を図ろう～

- 春耕時はトラクタの速度を落とし、作土深15 cm以上を確保しましょう。

春作業に向けての安全対策

- ハウスのビニール張りやトラクタ作業などで事故が発生しています。事前に危険な作業を見直し、事故防止対策を徹底しましょう。

※農業機械の点検と整備

- ・早めにトラクタ、田植機の点検を行いましょ。
- ・点検作業を行う場合は、必ずエンジンを切りましょ。
- ・事故を未然に防ぐため、作業開始前に故障箇所がないか確認しましょ。



令和6年 春の農作業安全運動 展開中!

ウラに続く

健苗育成のポイント

◎ 令和6年産種子の休眠は平年に比べやや深いことから、浸種積算温度の目安は120℃・日程度とし、平年に比べ浸種日数を1～2日程度長くしましょう。

① 高温登熟を回避するために「コシヒカリ」の5月15日を中心とした田植えを徹底するため、播種は4月26日を中心に行い、育苗日数（播種日～田植日）が19日以内としましょう。

② 育苗期間中は、ハウス内が高温にならないよう換気を徹底しましょう。特に、4月下旬以降は、搬出直後から積極的に換気しましょう。

育苗作業の目安

～田植日に合わせて育苗計画を立てましょう～

品種	田植予定	浸種	催芽	播種	搬出
てんたかく てんこもり	5月5日	3月30日	4月12日	4月13日	4月16日
コシヒカリ	5月15日	4月15日	4月25日	4月26日	4月29日
富富富		4月13～14日			

種子消毒

○消毒開始時は適水温（12.5℃）で浸種を行い、その後は2～3日間は水の入れ替えを行わず、種子消毒の効果を高めましょう。

浸種

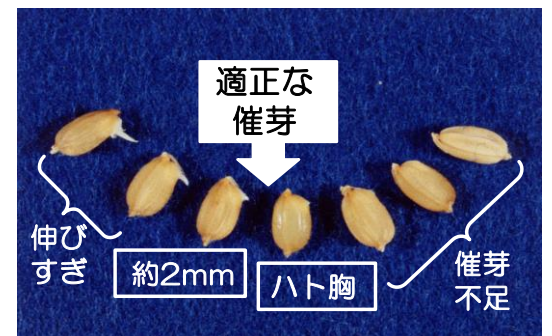
～しっかり浸種して催芽を揃えましょう～

○浸種積算温度（水温（10～15℃）×日数）の目安は消毒期間を含め120℃・日程度としましょう。

○浸種水量は種籾重量の2倍を確保し、種籾が十分つかる程度にしましょう。その後は2日に1回は水を交換しましょう。

催芽

○催芽温度は30℃で、芽の長さはハト胸から2mm程度に揃えましょう。
催芽時間の目安は18時間程度です。



播種・出芽

○播種量は箱当たり乾籾120g（催芽籾150g）です。（消毒済み種子1袋で33箱程度）

○育苗器の温度は30℃を厳守（30℃を超えると病気が発生しやすくなります）し、日数は2.5～3日間を目安に、芽の長さ1cmを確認してから搬出してください。

搬出～緑化期（1葉期）

○搬出後のかん水は、晴天の場合は十分に、曇雨天の場合は覆土を落ち着かせる程度にしましょう。

○寒冷紗等の被覆資材で遮光し、白化を防止しましょう。
被覆資材は緑化後（3日以内）にはずしましょう。

硬化期

○かん水は、原則として早朝にたっぷりかけましょう（床土が乾くようなら日中にも追加かん水しましょう）。

○田植えの7日前頃から昼夜ともに換気し、十分外気に慣らしましょう。

温度管理の目安

苗のステージ		緑化期	硬化期
育苗日数		2～3日	13～15日
		(3～4日)	(15～20日)
温度	昼	25℃以下	
	夜	10℃以上	

注) ()内は4月上旬に播種した場合

積極的な換気

○ご不明な点はJA高岡 担当営農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班(26-8477) までお尋ねください。